

特集①子どもへの自転車教育

子どもへの教育を通じて保護者も学ぶ



子どもにとって自転車は最も身近な交通手段といえる。そして、子どもへの自転車教育は交通社会の一員としての自覚を促す上でも重要だ。今回は各地域で行われている子どもへの自転車教育の現場を紹介しながら、事故防止のために子ども、また保護者に伝えるべきことは何かを探る。



Hondaの交通安全情報紙
The Safety Japan
Since 1971

6・7
2009
JUNE・JULY

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL 03(5412)1736
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：千葉英雄
※年間購読をご希望の方は、下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエティブ 安全運転普及本部係
TEL03(3405)1191 E-mail sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJホームページは

CONTENTS

- 特集①子どもへの自転車教育
子どもへの教育を通じて保護者も学ぶ……………①
- 特集②シミュレーターによる自転車教育
中学生・高校生への自転車教育に活用が期待される
Honda自転車シミュレーター……………③
- 危険予測トレーニング(KYT) / 料金所で危険……………④
- The教材 / マナブくんの「みんなでまなぼうこうつうあんぜん」……………④
- SJクイズ……………④
- DOCUMENT EYE (29)
- 一般道路を走行中のクルマの車間距離(車間時間)を観察する……………⑤
- 地域のチカラ / 埼玉県の交通安全活動……………⑥
- 現場訪問 / NEXCO中日本(中日本高速道路(株))……………⑦
- TOPICS ① / 第9回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会……………⑦
- TOPICS ② / 安全運転教育用ソフト「Hondaセーフティナビ」……………⑦
- NEWS REVIEW……………⑦
- 教育最前線 / 栃木県立真岡工業高等学校・原付安全運転講習……………⑧
- 読者の声……………⑧



交差点を左折する場合の悪い例(上)として車道側にふくらんで曲がる。正しい例(下)として道路の左側端に沿って曲がる

5月11日午前9時30分、尾久自動車学校(東京都小金井市)に自転車を押し歩く小学生が続々と集まってくる。尾久自動車学校では年に1度、同校の休校日を利用して小金井市立東小学校の児童を招いて自転車教室を開催している。今回参加したのは東小学校の4年生79名と引率の先生、見学する保護者だ。

尾久自動車学校・副管理者検定部長の小菅三男さんが「自転車は便利な乗り物ですが、正しく乗らないと危険です。今日は、みなさんに自転車の正しい乗り方と、道路でこんなことをすると危ないということを勉強してもらいます」と主旨を説明して、教室は始まった。

2時間のプログラムは、自動車の特性と自転車の正しい乗り方を教習指導員が実際に乗って見せることで児童に理解させる「実演」と、児童が自分の自転車に乗り、教習所のコースを使って法規走行や課題走行を行う「実走訓練」で構成されている。

実演は、まず並走時の危険について。2名の教習指導員が自転車で並走し、車道寄りの1台がセンターラインの方へ膨らんでしまった時に後方から来たクルマと接触しそうになる場面を再現。並走は危険であることを伝える。次に交差点の通行方法。教習指導員がまず悪い例を見せ、その後、正しい例を見せる(写真参照)。また、教習指導員が自転車を運転し、左折するクルマに巻き込まれる事故も再現した。

この他、クルマとバイクの速度の目視観察も行われた。最初に40km/hで

走るクルマが児童の目の前を通過。教習指導員が「何km/hくらいのスピードだったか」と質問すると、ほとんどの児童は40〜50km/hと答える。次にバイクが同じ速度で通過。同じ質問をすると、今度は20〜30km/hという回答が多い。同じ速度で走っていても、クルマと比べて小さいバイクは遅く感じてしまうことを児童に実感してもらおう。

体験を通じて交通ルールを学ぶ

実走訓練は、法規走行と課題走行。法規走行は、車道の左側端を1列で走行し、信号機のある交差点で右折・左折する。右折では二段階右折を練習。「止まれ」の標識がある交差点、見通しの悪い交差点での一時停止・左右確認を行う。交差点には教習指導員が立って、「必ず止まって、左右からクルマが来ていないかよく見ましょう」と声をかける。児童は指定されたコースを周回し、交通ルールに則った運転を身につけた。

課題走行では二輪の教習に使用する一本橋やパイロンスラロームなどで、バランス感覚を養う。児童は最初のうち、うまく走れなかったが、真剣に練習し上達していった。

小菅さんによると、法規走行だけでは単調になってしまふので、課題走行も取り入れているそうだ。東小学校では、この自転車教室を授業の1つとして



左折巻き込み事故の再現



「止まれ」の標識のある交差点で、悪い例(上)として一時停止をせずに通過し、右側から接近するクルマと接触しそうになる場面を見せる。その後に、停止線の手前で一時停止してから、左右の安全を確認して通過するという正しい例(下)を見せる

所のコースを使って練習できるため、公道に近い環境の中で交通ルールを学ぶことができることを挙げる。「交通安全の専門家である教習指導員の方々から、自転車の安全運転について正しい知識を教えていただけるのは、ありがたいことです。児童が交通社会の中で、自分の命を守るための危険回避能力を養うことができます」と評価する。

見学していた保護者は、「自転車の交通ルールを基本から学べるだけでなく、子ども一人ひとりの運転を見て、適切なアドバイスがもらえるのは貴重な機会です。実演の部分は事故再現などもあり、子どもの印象に残りやすい内容で、大人が見ても参考になります」と話す。

東小学校の児童を対象にした自転車教室は、25年以上前から続けている尾久自動車学校の地域貢献活動の1つである。指導にあたった同校の小菅三男さんは、「児童がルールを守っている場合や、ドライバーが見落とされることもあります。事故の再現を見せることにより、交通事故にあわないためにはどうしたらいいのか指導しています。見学もできますから、より多くの

同校の中川裕子校長は、この自転車教室の特徴として、児童が自分の自転車を運転し、教習



法規走行や課題走行に取り組む東小の児童

保護者の方々に見ていただきたいと思っています。児童本人への教育も重要ですが、保護者の方が正しい知識を学んでいただければ、家庭でも適切なアドバイスができるでしょう」と話す。

親子で楽しむ 交通安全クイズ

地域に住む親子を対象とした自転車安全教室を春と秋の年2回、10年以上にわたり開催しているのは藤井寺自動車教習所（大阪府藤井寺市）だ。4月29日午前9時30分、自転車安全教室に幼児から小学校高学年までの子どもと、その親や家族、60名近くが自分の自転車に乗って集まって来る。

藤井寺自動車教習所管理者の西野有次さんはホームページで告知したり、周辺の住宅にチラシを配り、参加を呼びかけているという。「当校では、教習生はもちろん、卒業生や地域の方々に交通安全を伝えていくことが大切と考えています。今日は、ここで実際に体験したことを日頃の交通安全や危険予測に役立てていただきたいと思っています」。この日の安全教室は、教習コースを使って実際の道路で見かける交通状況を再現し、どんな場面でもどんなクルマが危険なのかを理解し、交通事故防止につながる交通安全クイズなどを実施する。

指導を担当するのは同校教習指導員2名。参加者は教室に集合し、教習指導員が

自転車の点検方法と自転車に乗る時の注意点について話す。自転車を目の前で解体し、ブレーキやタイヤ、チェーンなど点検が必要な部品は大きなスクリーンに映し出して説明するので、子どもにもわかりやすい。「自転車が一番大切なのはブレーキ。スピードを出せば出さず止まるのが難しくなります。スピードを出し過ぎないようにしましょう」と教習指導員が子どもたちに向けて説明。続けて保護者には、「ブレーキは大切なので、ブレーキがちゃんと効くかどうか、点検してあげてください」。

「座席の高さは、お子様の両足が地面に着くように高さを調整してあげてください。サイズの合わない自転車だと事故につながりやすくなります」とアドバイスして点検の説明が終わる。

次は教習所のコース全体を使っての交通安全クイズ。まずコースを歩いて1周しながら10問のクイズを出題する。次に、もう1周してクイズの解答を伝える。自転車道路を通行したり、歩行する際の注意点がクイズの題材になっている。途中で教習指導員が通行時の注意などもアドバイスする。1問目は工事現場の近くを通行する際の注意点からスタート。「工事現場では、危険がいりいりなところにかくれていきます。全体をよく見て安全を確認してから通りますよ」と教習指導員が解説する。2問目はクルマのハザードランプの意味。3問目の場所では、止まっているクルマ



藤井寺自動車教習所では、点検ポイントがわからぬ子どもに説明

実際にバックランプが点灯しているクルマを見て、合図の意味を伝える

の後ろのバックランプがついている。問題は「クルマの後ろの透明のランプがついています。この合図の意味は何でしょう?」「この合図が見えたら、クルマがバックしてくるので、気をつけてください」。

この後、信号の意味、自転車の通行方法、駐車車両の脇の通行、自転車がパンクしてしまった時の対処などが出題された。コースの最後は交差点。交差点を曲がるクルマと、並走する自転車の巻き込み事故を教習指導員が実車で再現。クルマからは自転車が見えていない可能性があることなどを説明し、交差点で曲がるクルマに近づきすぎると自転車巻き込まれてしまう危険性があることを伝えた。

この後、全員で昼食をとって終了。家族で参加した坂本光一さんは「教習所のコースで実際の交通場面を想定したクルマなどを使ったクイズ形式だったので、実践的で子どもにもわかりやすくて良かったと思います。これから子どもが大きくなって、自転車に乗って一人で行けることも多くなるので、近くの教習所でこうした教室を開催していただくことはすばらしいことです。私たち親も普段、運転する際に注意しなければいけないと改めて思いました」。親にとっても学ぶことの多い自転車安全教室だったようだ。



藤井寺自動車教習所の自転車安全教室に参加した坂本光一さん一家

保護者を通じた 幼児への自転車教育

5月21日、三重県鈴鹿市立石薬師幼稚園では、園児14名とその保護者14名が参加して交通安全教室が開かれた。指導するのは鈴鹿モビリティ研究会の喜井美雄事務局長、相浦和則インストラクター、鈴鹿市交通教育指導員、石薬師幼稚園の林千尋園長は、「小さい頃からの交通安全教育は非常に重要です。また、家庭での指導も必要で

すから、保護者の方々にもご参加いただいています」と、交通安全教室を親子で学ぶ場として考えている。

交通安全教室は、「親子で一緒に学ぶ時間」「親子別に学ぶ時間」「親子で体験学習の時間」の3つのパートで構成されている。

最初は腹話術を使った「親子と一緒に学ぶ時間」。交通安全教育プログラム「あやとりひよこ編」を使って、道路の歩き方を学ぶ。一方、保護者は別室で相浦インストラクターによる交通安全のプレゼンテーションを受ける。初めに、子どもの視野・視力や、幼児・児童の交通事故状況を説明した後、子どもへの交通安全の教え方に入る。

「信号の意味や交通ルールを教えることは重要ですが、ルールを知っているだけでは、事故を防ぐための行動にはつながりません。知識を行動につなげることが大切です。必ず体験的なことを行って、自分で考える機会を与えてあげてください。自転車の乗り方指導といえば、まず自転車のルールを教える。次に、必ず交差点などで止まって見るとを体験的に教えることです。また、子どもに対して『急いで』とか『早くしなさい』ということは、余計なプレッシャーを与えることになるので、避けるようにしましょう」。

続いて自転車の選び方と調整方法、ペダルへの足の乗せ方、自転車の乗り方などを具体的に説明する。最後は自転車の交通ルールについて。「6歳未満の幼児の自転車は、道交法では歩行者扱いですから、歩道のない道路では右側通行で、保護者の付添も必要です。小学生になったら自転車は左側通行となります」と解説する。「小学生になる直前に、左側から乗車し、後ろを確かめてから出発する。道路の左側を通行し、両手でブレーキをかけて止まる。そして、自転車から降りてよく見て聞いて、横断歩道を渡るという練習をするようにしよう」。

林園長は、「自転車に乗り始める園児は



石薬師幼稚園の交通安全教室では、保護者が子どもに対する自転車の指導方法などを学んだ。その間、園児は「あやとりひよこ編」を使った交通安全教育を受ける

少なくありません。子どもにどのように教えればいいのか不安な保護者もいらっしゃるから、自転車の安全な乗り方についても学んでいただいています」と、そのねらいを話す。

最後に、再び親子が一緒になって「親子で体験学習の時間」。幼稚園の敷地を出て実際の道路を歩いて、止まる・見るなどの練習を親子で繰り返して練習した。そして、全員が幼稚園まで戻り、交通安全教室は終了。

鈴鹿モビリティ研究会の喜井事務局長は保護者が参加する交通安全教室では、子どもの交通行動の特性や、基本的な交通ルール、自転車の指導方法について話しているという。「すごく大切なことでも、意外と大人も知らなかったり、間違った知識を覚えて、そのまま子どもに伝えたり、悪い手本を示している場合もあります。知らないことを再認識し、知識を身につけて、子どもたちを正しく導いてもらう必要があります」。

子どもへの交通安全教育では、子どもの手本となり、家庭で教育にあたる親が、ともに参加することも重要なことだといえる。

※1 鈴鹿モビリティ研究会（本年4月からは本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロック）＝三重県鈴鹿市とHondaが将来のより良い交通環境づくりをともに進めることを目的として1993年に設立し、市内の事故分析による道路環境の改善や交通安全プログラムの開発、教育の実施などを行っている。
※2 あやとりひよこ編＝鈴鹿モビリティ研究会が開発した交通安全教育プログラム。幼児向けの「あやとりひよこ編」、小学3・4年生向けの「あやとりひよこ編」、小学生向けの「あやとりひよこ編」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりひよこ編」がある。あやとりひよこ編は「あやとりひよこ編」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>

特集② シミュレーターによる自転車教育

中学生・高校生への自転車教育に活用が期待される Honda 自転車シミュレーター

中学生や高校生にあたる13～18歳は自転車乗用中に交通事故に遭いやすい年齢層である。Hondaでは自転車利用者に交通ルールとマナーをわかりやすく伝え、さらに危険予測能力を高めることを目的に体験型教育機器「Honda自転車シミュレーター(以下、シミュレーター)」を開発中である。開発段階のシミュレーターを使い、中学校や高校の教育現場などでも検証を重ね、シミュレーターを活用した効果的な教育方法の研究を進めている。



飯野高校での交通安全教室

自転車の交通ルールを再確認してもらう

鈴鹿市と鈴鹿モビリティ研究会は、シミュレーターを活用した交通安全教室を鈴鹿市内の中学校と高校で行っている。「市内の自転車事故ゼロを目標に啓発活動を積極的に行っています」と、鈴鹿市生活安全部防災安全課の加藤裕之さんはいう。

3月16日、三重県立飯野高等学校で1・2年生を対象に交通安全教室が開催された。同校の津荷政裕教諭は「昨年、改正道路交通法が施行されたことに伴い、生徒たちに自転車の交通ルールを再確認してもらうことを目的に交通安全教室を実施することにしました」と話す。

指導を担当する鈴鹿モビリティ研究会の西條昌宏インストラクターがシミュレーターを使う前に、自転車の安全運転について説明する。

まず、自転車の通行位置の確認。「自転車は車両扱いですから、クルマやバイクと同じように左側通行です。自転



シミュレーターの再生機能を使って、代表者の運転を振り返り、インストラクターがアドバイス



白子中学校での交通安全教室

車通行可の標識がある場合は、歩道を通行することができません。ただし、歩道は歩行者が優先という意識を持って、速度は控えめにしましょう。次に、自転車事故は信号機のない交差点での出会い頭事故が最も多く発生していることを伝える。「原因の1つとして、『止まれ』の標識のある場所で一時停止をしていないことが挙げられます。止まらなければならない場合、必ず右、左、右を確認してください」。

そして生徒3名、先生1名が代表としてシミュレーターを体験。代表者の運転の状況は、大型のスクリーンに映し出される。シミュレーター上で通学路や市街地、商店街など、さまざまな交通場面を走行する。走行が終わると、その過程をさまざまな視点で再生。事故に合いそうになった場面では、どのような危険予測が必要だったか生徒たちに考えてもらう。

「体験した生徒は『自転車を運転している感じだった』といっていましたから、実際に路上を走行して指導するのに近い教育効果があると感じました」

普段の自分の運転を客観的に振り返る

と津荷教諭はいう。「シミュレーターを運転している画面を大型スクリーンに映し出したので、後ろで見ている生徒たちにもわかりやすかったと思います。シミュレーターを体験できた生徒は2名でしたが、その生徒たちが危険な場面に遭う状況を見ることで、事故を防ぐためにはどうすればいいか気づくことができましたでしょう」。

4月15日には鈴鹿市立白子中学校が2・3年生を対象に交通安全教室を開催。シミュレーターは2年生向けに活用された。同校の高須英彰教諭は「シミュレーターに登場する交通場面は生徒たちにも身近なシーンになっているので、普段の運転に近い状況が再現できています」とシミュレーターを評価する。

シミュレーターを体験したのは生徒3名と先生1名。飯野高校と同じように、代表者の運転状況を大型のスクリーンに映し、振り返る。路地からクルマが飛び出してきて衝突しそうになる場面。「一時停止標識を守らない

埼玉県知事と中学生・高校生がHonda 自転車シミュレーターで交通ルールを学ぶ

春の全国交通安全運動初日の4月6日、埼玉県庁(さいたま市)にて「知事と学ぶ交通安全～力を合わせシミュレーターに挑戦～」が開催された。これは新学期を迎える中学生・高校生が知事とともにシミュレーターに挑戦して楽しく交通ルールを学ぶことにより、交通安全意識の醸成を図ることを目的としている。この日、上田清司知事と浦和実業学園中学校・高等学校(さいたま市)の生徒がシミュレーターを体験しながら、交通ルールを学んだ。

シミュレーターを体験した上田知事は、「普段やっていることで正しくないことも多い」と感想を述べ、交通ルールを守ることの大切さを呼びかけた。



シミュレーターを体験する上田知事と浦和実業学園中学校・高等学校の生徒



浦和実業学園中学校3年生の渡辺麻耶さんは、「自転車ではスピードの出し過ぎに、気をつけようと思いました。また、自転車が走るべき通行位置もよくわかりました」と、シミュレーターで学んだ交通ルールを実践していきたいと感想を語った。



自転車に乗る時の正しい運転姿勢についてインストラクターが説明

クルマもいますから、こちらが優先道路を走っていても交差点に近づく時は徐行するようにしましょう。危ないと感じたら、無理に通過しようとせず、必ず止まってください」と西條インストラクターがアドバイスする。

「こうした新たな教育機器を取り入れたことで生徒たちの関心も高まり、メリハリのついた交通安全教室になりました」と高須教諭は感想を語った。

「普段、自分が運転している様子は確認できませんが、シミュレーターには再生機能があるので、自分の運転を客観的に振り返ることができます。中学生・高校生には、自分自身または友人の運転を見てもらうことが安全運転を促す上で、効果的だと考えています」と西條インストラクターはいう。